

【鳴門市行政評価】

平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

◎基本情報

事務事業名	消防広域化推進事業		担当部署	消防本部 消防総務課	
総合計画体系			根拠法令 計画など	消防組織法	
基本政策(大項目)	3	しっかり安心・快適住み良いまちづくり	事業 期間	開始	平成 22 年度
政策(中項目)	1	安心して暮らせるまち なんと			終 期
(小項目)		消防			
施策	2	消防体制の充実			
基本事業	3	市町村広域消防運営計画の策定			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 県内の消防本部														
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	平成20年8月に策定された「徳島県消防広域化推進計画」に基づき、「市町村広域消防運営計画」を策定し、今後、複雑多様化する消防需要に対応するため、県内の12消防本部を1消防本部に統合するための整備を行う。														
事業計画	26年度に何を計画していたか	広域化の目標期限を5年延長したことから、今後、国や県、県内の消防の状況を注視しながら、広域化について研究を進めていく。 また、必要に応じて、板野東部消防組合及び板野西部消防組合との検討会も開催する。														
成果目標	事業目標の達成度合	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あり方検討会の開催</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位	あり方検討会の開催	0	0	0	0	1	回
指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位										
あり方検討会の開催	0	0	0	0	1	回										

◎実施結果(DO)

事業実施内容	26年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	広域化の目標期限を5年延長したことから、国や県、県内の消防の状況を注視しながら、広域化について研究を進めた。 本市において消防救急無線デジタル化事業は、平成27年3月に整備完了済み。					
事業実施手法	<input type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
指標名		25年度実績	26年度実績	27年度目標	28年度目標	29年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	0	0	0	0	1	回
	2						
成果指標 対象にどのような効果があつたか示す指標	あり方検討会の開催	0	0	—	—	—	回
	目標達成率(実績/目標)		0.0	—	—	—	%
今年度の進捗状況	終了		事業全体の進捗状況		終了		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成26年度	当初予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	0	0	0
		決算額	0	0	0	0	0	0
		繰越額						0
	人件費	正規職員(6,878千円/人)	臨時職員(2,023千円/人)		総人件費		総事業費	
0.0				0	0			

事業費推移	年度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度
	事業費	0	0	-	-	-
	うち一般財源	0	0	-	-	-
	人件費	0	0	-	-	-
	総事業費	0	0	-	-	-

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	D:有効性がなかった		現段階では、どこの消防本部でも時期尚早である。
	効率性	D:効率的でなかった		効率性を問う以前の段階である。
②成果に対する評価	指標名	あり方検討会の開催		全ての消防本部が消防救急無線デジタル化事業を最優先するため、デジタル化事業が整備完了しないと消防広域化へ方向転換できず、広域化へ向けて全く進展がなかった。
	目標	0	回	
	実績	0	回	
	評価	D:目標を達成できなかった		
③総合的な評価		D		各消防本部の消防無線デジタル化事業が終了し、広域化へ目を向けて初めて評価できるが、現段階では、それ以前の段階である。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	国や県、県内の消防の状況を注視しながら研究を行ったが、国が広域化の目標期限5年延長したことに伴い、県計画の実施が見込まれないことから、一旦、本事業は終了する。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H27年度				
	H28年度				